

文化財に親しもう！ 東京文化財ウィーク 2011

毎年11月1日から7日までの1週間は「文化財保護強調週間」です。

この期間中は、全国的に文化財の保護と活用の推進を図るため、各種事業が行われます。

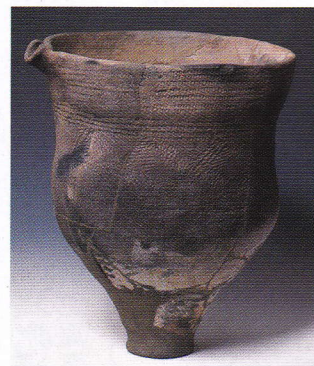
東京都では、強調週間の前後を「東京文化財ウィーク」として、都内全域で文化財を公開するとともに、関連する企画事業を実施いたします。公開事業については、ウィーク期間中に特別に公開する文化財と通年公開している文化財があります。



尖頭器(槍先形石器)

練馬区や近隣の遺跡から出土した土器や石器など約90点を展示します。
区内120か所の遺跡のうち90か所以上が縄文時代の遺跡です。国立歴史民俗博物館の年代測定によると、縄文時代は一万六五〇〇年前から約三〇〇〇年前までという結果がでています。つまり、縄文土器は世界で一番古い土器ということになります。

東京文化財ウィーク企画事業 企画展 武蔵野台地の縄文遺跡



丸山東遺跡 注口土器

武蔵野台地では旧石器時代の尖頭器(槍先)の製作技術は、縄文時代前期までみられますが、一方で槍の装着部分を作る有舌尖頭器が、縄文時代初めに出現し(写真左上)、次第に石鏃(矢じり)にとつて変わります。
また区内で最も古い土器(写真右)や縄文時代前期の注口土器(写真左)は大変珍しいものです。さらに、区内では出土していない後期の注口土器も展示します。約一万三〇〇〇年続いた縄文時代の遺物や遺跡の写真など、区内の遺跡を中心に紹介します。縄文時代の各時期の土器をはじめ、土偶(写真右下)や石棒など祭りに関わる遺物も展示します。

ねりまの文化財

練馬区
教育委員会事務局
生涯学習課
(文化財係)
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1
Tel. 03(5984)2442



丸山東遺跡 区内最古の土器



北新井遺跡 土偶

私たちの住んでいる土地に、一万年以上前から人々が歴史を刻んでいたことを示す、さまざまな遺物をぜひご覧ください。

【期間】
11月27日(日)～12月25日(日)
午前9時～午後6時(月曜休館)

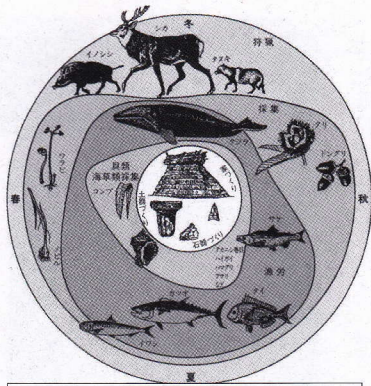
【展示解説】
12月11日(日)
午後2時～午後3時

【会場】
石神井公園ふるさと文化館

【交通】
石神井公園駅(西武池袋線)下車
徒歩15分

【問合せ】
文化財係
03(5984)2442

※ガイド冊子「東京文化財ウィーク」
(通年公開版・ウィーク期間専用版)
9月下旬に練馬区教育委員会文化財係(区役所本庁舎11階)、石神井公園ふるさと文化館、区立図書館などで配布する予定です。また同内容が東京都のホームページにも掲載されます。練馬区以外の事業にも参加できますので、ご覧ください。



縄文カレンダー(原画を加工)
小林達雄氏原図、木村政司氏原画

企画展関連 講演会 縄文のムラ

【講師】 國學院大學名誉教授 小林達雄
【日時】 11月27日(日) 午後2時〜4時
【会場】 石神井公園ふるさと文化館
多目的会議室

【定員】 先着100名(無料)
【申込み】 11月1日(火) から電話で
受け付けます。
【問合せ】 文化財係
03(5984)2442

講師は、縄文時代の研究成果を広く一般にわかりやすく紹介してきました。左図のように縄文時代の採集狩猟の生活を季節性でとらえた「縄文カレンダー」などを作成した縄文時代研究の第一人者です。
講演会では、縄文人の生活や集落についての様子をわかりやすく解説します。

企画展関連 シンポジウム 縄文集落研究の争点

縄文時代の集落研究の現状と問題点について、第一線で活躍する4人のパネリストの発表・討論により、争点を明らかにします。発掘調査の成果をもとに、住居分析、移動論の観点等から縄文集落の実態に迫ります。

【パネリスト】

- ・石井 寛 横浜市ふるさと歴史財団 研究調査員
- ・小林謙一 中央大学文学部准教授
- ・鈴木保彦 日本大学芸術学部教授
- ・山本暉久 昭和女子大学 人間文化学部教授

【日時】 12月4日(日)

午後1時30分〜4時30分(予定)

【会場】 石神井公園ふるさと文化館
多目的会議室

【定員】 先着80名(無料)

【申込み】 11月1日(火) から電話で
受け付けます。

【問合せ】 文化財係
03(5984)2442

石神井公園ふるさと文化館 東京文化財ウィーク企画事業

○特別展「江戸時代の百科事典」
—本草学者小野蘭山の世界—

9月17日(土)〜11月6日(日)

観覧料：一般300円、高校生・大学生200円、65歳以上75歳未満・障害者150円、中学生以下と75歳以上無料

※関連講演会も開催します。

○ギャラリー展示「石神井城跡の発掘と中世城郭」(観覧無料)

11月2日(水)〜12月1日(木)
○ふるさと文化講座(事前申込)

- ・「武蔵野の地形と湧水」
10月2日(日) 午後2時〜
- ・「食卓で育む心と食文化」
10月29日(土) 午後2時〜
- ・「古民家に学ぶ生活の知恵」
11月13日(日) 午後2時〜

○ふるさと探訪(事前申込)

- ・10月16日(日) 午前9時〜
- ・10月30日(日) 午前9時〜

○東京9区文化財古民家めぐり

・9区合同開催行事

- 「来て・見て・発見!古民家めぐり」
10月10日(月・祝日) 午前10時〜
会場 世田谷区次大夫堀公園国民家園
- ・練馬・板橋合同解説会(事前申込)
11月6日(日) 午前10時

【問合せ】 石神井公園ふるさと文化館
03(3996)4060

※詳細は「ねりま区報」をご覧ください。

文化財保護審議会 委員委嘱(第13期)

練馬区では、区内文化財の保護・保存および活用を図るため、練馬区文化財保護条例に基づき、学識経験者で構成された練馬区文化財保護審議会を設置しています。

主な役割は、①教育委員会の諮問に応じる②文化財の保存等についての重要事項を調査し、審議する③重要事項について教育委員会に提言するの三点です。この度、平成23年4月1日付けで、左記8名に、練馬区文化財保護審議会委員を委嘱しました。任期は2年です。

▽委員一覧(敬省略・五十音順)△

- 漆澤その子 武蔵大学教授 (日本芸能史・近代史)
- 佐藤 孝之 東京大学史料編纂所教授 (日本近世史)
- 品田 穰 東京農業大学客員教授 (保全生態学)
- 柴辻 俊六 早稲田大学講師 (日本中世史・古文書学)
- 副島 弘道 大正大学教授 (日本・東洋美術史)
- 古川 修文 法政大学講師 (民俗建築・建築構法)
- 三田村佳子 埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸主幹(民俗学)
- 森 公章 東洋大学教授 (日本古代史)

国指定・登録・都指定文化財を公開しています

区内にある国・都指定の文化財を順番で観覧することができます。

◇練馬白山神社の大ケヤキ

(国指定天然記念物)

白山神社の2株のケヤキは、いずれも樹齢約900年と推定される全国でも有数の巨木です。永保3年(一〇八三)、源義家が「後三年の役」で東北地方に向かう際に戦勝を祈願して苗木を奉納したと伝えられています。



【所在】練馬4-2 白山神社境内

【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営大江戸線)下車 徒歩5分

◇三宝寺池沼沢植物群落

(国指定天然記念物)

三宝寺池の中央にある「中の島(浮島)」周辺を範囲として指定されています。コウホネ、ミツガシワ、ハンゲシヨウ、カキツバタなどの水生植物を中心に貴重な植物相がみられます。

【所在】石神井台一丁目

都立石神井公園内

【交通】石神井公園駅(西武池袋線)下車 徒歩15分

◇牧野記念庭園

(牧野富太郎宅跡)

(国登録記念物)

世界的に著名な植物学者である牧野富太郎(二八六二—一九五七)が、大正15年から逝去するまでの30年余り居住した住宅と庭の跡です。昨年8月、展示室等の改修を行いリニューアルオープンしました。

【所在】東大泉6-34

【交通】大泉学園駅(西武池袋線)下車 徒歩5分

【開園時間】午前9時〜午後5時

※火曜日休園

【問合せ】牧野記念庭園

03(3922)2920

◇石神井城跡

(都指定史跡)

石神井川の水源の一つにもなる三宝寺池の南側台地に石神井城跡があります。中世に石神井川流域を支配した豊島氏の拠点でした。今年6月に都の旧跡から史跡に種別変更しました。

【所在・交通】

「三宝寺池沼沢植物群落」と同じ

◎ウィーク期間中、普段は入ることのできないフェンス内(主郭内)を特別公開し、発掘パネル展を行います。

【日時】10月29日(土)〜11月6日(日)

午前9時30分〜午後4時30分

【パネル展に関する問合せ】

石神井公園ふるさと文化館

◇東高野山奥之院

(都指定史跡)

長命寺の境内西部にある霊場域です。江戸時代前期に紀州高野山を模して整備されました。石塔や石仏が建ち並び、入口には御廟橋がかかります。

【所在】高野台3-10

【交通】練馬高野台駅(西武池袋線)下車 徒歩5分

◇尾崎遺跡

(都指定史跡)

春日小学校の建設にあたり発掘調査された旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡です。尾崎遺跡出土品(区指定文化財)が展示室で一覧になれます。

【所在】春日町5-12 春日小学校内

【交通】練馬春日町駅(都営大江戸線)下車 徒歩8分

【開室日時】学校休業日

午前10時〜午後4時

※校舎内に立入る際には、必ず学校の受付にお申し出ください。

◇小野蘭山墓及び墓誌

(都指定有形文化財)

◇池永道雲墓

(都指定旧跡)

小野蘭山(一七二九—一八一〇)は江戸時代中期の本草学(博物学)者、池永道雲(一六七四—一七三七)は書家・篆刻家です。両墓ともに大正12年の関東大震災の罹災により昭和の初めに浅草から現在地に移転しました。

【所在】練馬4-27

迎接院・受用院墓地

【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営大江戸線)下車 徒歩5分

◇丸山東遺跡方形周溝墓

出土品(都指定有形文化財)

大泉町三、四丁目に所在した丸山東遺跡の「方形周溝墓4号」中心に出土した弥生式土器12点・ガラス玉71点・管玉5点・鉄剣1口です。武蔵野台地における弥生時代後期後半の方形周溝墓一括出土品として秀逸です。

【所在】石神井公園ふるさと文化館



文化財を訪れる際には、所有者や周囲のご迷惑にならないようご注意ください。

栗原遺跡の復元住居が修復されました

都立城北中央公園内にある栗原遺跡の復元住居は、昭和32年に竣工してから一度、屋根を修復したものの、茅の傷みが著しく、近隣住民などから修復の要望が強く寄せられていました。こうした住民の声により、東京都建設局東部公園緑地事務所が公園整備事業として、復元住居を修復することになりました。

栗原遺跡は、都立城北中央公園の練馬区氷川台一丁目7番から板橋区桜川一丁目にひろがる遺跡で、田柄川が石神井川に合流する台地縁辺に位置します。昭和30年に立教大学のグラウンド造成中に遺跡がみつきり、急遽、翌年に立教大学が発掘調査を実施しました。旧石器、縄文、弥生、古墳時代末、奈良・平安時代の遺跡で、弥生時代と古墳時代末、奈良・平安時代の住居跡がみつかりました。



図1 主柱と梁



図2 棟の骨組



図3 茅葺き替え作業

平安時代の住居跡H8号址とH9号址を残し、H9号の上屋を復元しました。現在の民家を参考にし、鉄工具を使わず、民家の材でも使われる武蔵野に繁茂していたケヤキ・クリ・スギ等を用いました。4本の支柱はクリの股木を用い、梁はケヤキを使用しました。今回の竪穴住居の上屋修復工事は、平成23年2月中旬から3月下旬まで行われました。復元事業は二回目ですが、主柱から補強する大掛かりなものとなりました。修復は昭和32年の設計を基本とし、復元当時の部材をなるべく利用する方法をとりました。

主柱と梁(図1)は、材をそのまま利用しましたが、主柱の根元の腐食は著しく、主柱と梁は垂木で支えるような状態だったため、根元にコンクリートを巻き、補強しました。また土留めの木は、もとは炭化させたスギを用いていましたが、樹脂でできた偽木や板材に替えました。前回の復元時では、



図4 竣工

カマドは屋根の外に噴出し口のような穴が作られ、粘土で復元されていますが、今回は新たに復元したカマドを設置しました。スギの皮を使った棟の覆いは、そのまま利用しました。

近隣住民の要望もあり、実現した上屋修復事業で、古代の住居を復元するという貴重な機会であったため、3月2日に見学会を実施しました。悪天候にもかかわらず、約70名の方が参加しました。

〈参考〉『栗原 セントポール・グリーンハイツ内遺跡発掘調査報告1955(1956)一九五七』

向山三丁目の道標 移転しました

7月、向山3-15の三叉路に所在した道標(道しるべ)を約50m東の区立向山公園内へ移転しました。

この道標は、弘化4年(一八四七)に上練馬村向山ヶ谷戸の保戸塚氏を願主として造立されました。北からのぞみ左右に分岐する場所に建てられており、左・右と向かい(正面)の三方向の行き先を表示した道標です。

正面の行き先は摩滅して読めませんが、左に進み南へ折れると南蔵院(中村一丁目)、新井薬師(中野区新井)へ至り、右に進んで南へ折れると堀之内妙法寺(杉並区堀ノ内)へ至ることを示しています。



第23回練馬区伝統工芸展

日時 10月28日(金)〜30日(日)

午前10時〜午後5時

会場 石神井公園区民交流センター

石神井公園ピアレスA棟

2階・3階

内容 展示・実演・販売・体験ほか

主催 練馬区伝統工芸会

後援 練馬区・練馬区教育委員会・練馬区観光協会

練馬区観光協会